



Newsletter みね山のりあき

ILove
とねまち

JCP.
TONE

No.1
改訂版
2019 Summer

2019年夏号 日本共産党の见解を紹介し
民報とねまち
発行/日本共産党利根町支部 電話 070-1484-2511

本気の地域おこし、いよいよ始動!

2019年6月10日、初めての一般質問に立ちました。初当選後の大舞台にかなり緊張しましたが、今現在、利根町にお住まいの方々のくらしを豊かにしたいという思いのもと、理想の利根町に近づけるための一般質問を構成し、議場におもむきました。

今回の一般質問は、住民の皆様から寄せられた要望・ご意見をもとに行いました。何年も繰り返し議論され、全く解決されない栄橋の渋滞問題に関係する若草大橋の通行無料化。若者から高齢者までが利根町に住み続けるための移動手段の確保。

そして空き家の助成金を移住定住のためではなく、空き家対策として町民の誰もが使える制度にすること。

「理想の利根町」を実現するために、「一般質問へ」

5月の臨時会にて
下記の委員に選出されました

- ◇厚生文教常任委員会
- ◇利根町男女共同参画推進協議会
- ◇国民健康保険運営協議会
- ◇議会運営委員会
- ◇利根町高齢者保健福祉・介護保険運営委員会
- ◇利根町社会福祉協議会評議員

インターネット上で話題となり、住民をがっかりさせてしまった新小学一年生へのランドセル贈呈事業の見直しについて行政へ問いかけました。地方公共団体は住民の福祉の増進を図ることを基（法第1条の2）として、住民の福祉の増進に務めるとともに、最小の経費で最大の効果をあげるようにしなければなりません（法第2条の14）。

利根町に暮らす人々が心の底から誇りを持てる町にするため、本気で地域おこしに挑戦致します。一緒に利根町をより良い町にしていきましょう。

町議会議員 峯山典明

2019.6/10 みね山のりあき一般質問

- ① 子育て活用促進奨励金・リフォーム工事助成金を町民のだれもが使える制度に
- ② 栄橋渋滞緩和につながる若草大橋の通行無料化進捗状況
- ③ 移動手段の確保
- ④ ランドセル贈呈事業の継続

次ページに質問内容を
くわしく掲載しています



5・6月の活動報告

第一回「みね山カフェ」開催

2019年6月19日（水）、初の「みね山カフェ」を開催しました。利根町でどのようなことが行われているのか、議員の仕事、町長・行政との関係性、そして第2回定例会での出来事についてお話ししました。対話を重視し、みなさんから様々なお話を聞いたことで新たな発見がありました。どうもありがとうございました。

タウンミーティング開催

「みね山サポーターのつどい」

2019年6月24日（月）、元町議のお二人を含む31名の方にご参加いただきました。ワークショップでは短冊に利根町に関する願いや思いを書いていただき、短冊の願いを基にテーマを決めてディスカッションし、「ALITを含めた外国人のストレス緩和や行政への要望」など沢山のご意見をいただきました。たった2時間ではありましたが、参加していただいた皆様と濃密な時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。

うもありがとうございました。今後もタウンミーティングは継続して開催し、多くの方と意見交換を行います。

7月の活動報告

原水爆禁止国民平和大行進

9日（火）、36名が利根町役場から布川地区コミュニティセンターまで、非核や平和を願い、20分の道のりを歩きました。利根町は「非核平和都市宣言」をしています。本来ならば宣言の看板があるはずなのに、利根町役場にはありません。

この「非核平和都市宣言」は、核兵器廃絶や非核三原則の遵守を自治体宣言や議会議決を行った自治体であるというを示すそうです。

8/5〜8/6に広島県で、8/7〜8/9に長崎県で原水爆禁止2019世界大会が開かれます。核兵器のない平和で公正な世界を!



7/9原水爆禁止国民平和大行進



サッカーで地域おこし始めます!

毎週火・木曜日の16:30~18:00に日本ウェルネススポーツ大学のグラウンドでみね山のりあきがサッカーを指導します。サッカーをやりたい方であれば年齢・性別・国籍・サッカー経験は問いません。利根町でブラジル流の指導を受けてみませんか? サッカーで利根町を盛り上げよう!



お申し込みはこちらへ

☎ 070-1484-2511

✉ tonefutbol@gmail.com

みね山のりあき一般質問と答弁

《質問①》空き家助成金について

空き家子育て活用促進奨励金リフォーム工事助成金は町外からの転入者が対象となっている。移住定住支援としての側面が強いので、空き家を減らすため、利根町に暮らす誰もが空き家を活用できる仕組み作りとして、空き家の助成金対象者を町内在住の方まで広げてはどうか。

《佐々木町長答弁》

町内在住者まで対象範囲を広げることで、空き家の利活用が促進され人口流出の抑制にも繋がると考えられる。助成金対象範囲の見直しを検討し、担当課に指示している。来年度に向けて財源を考えながらやっていく。

《質問②》若草大橋無料化について

若草大橋通行無料化について、町長は半年前、他の議員の一般質問に対して「進めていきます」と答えている。半年でどのような展開があったのか。「お勤めは東京圏、住むなら利根町」と宣伝するのであれば、移り住んで来た方たちのためにも

《佐々木町長・企画課長答弁》

スピード感を持ってやっていることは確か。大利根交通、我孫子市長、取手市長とも話をしてきた。でも上手くいかなかった。あきらめたわけじゃない。交通問題については、これからどんどん粘り強く交渉していると考えている。

《答弁を受けての発言》

諦めず粘り強く交渉していくと言った言葉を信じて、良い結果を待ちたいと思います。

《質問④》ランドセル贈呈事業について

インターネット上でランドセル贈呈事業が縮小されたことに対して「落胆した」と、町民の間で話題になっている。今回の決定は住民の方を落胆させている。困っている人たちの目線に立っていない。利根町は平成27年度〜31年度のプロジェクト「まちひと・ことと創世総合戦略」の軸として「子ども子育て応援とねプロジェクト」を掲げている。軸はしっかりする……

このプロジェクトを見て、利根町に移住して来た方たちがいる。利根町は子育て世代をとことん応援するとうたっている。子育てという観点から、ランドセル贈呈事業の継続を検討していただきたい。

橋の渋滞は改善するべき。栄橋の渋滞緩和に繋がる若草大橋の通行無料化について、どのぐらいの優先度で進めていくのか。

《佐々木町長・企画課長答弁》

町内アンケートの結果では公共交通の利便性の拡充を8割以上の方が望んでいる。そういった現状から大きい問題として捉えている。

《答弁を受けての発言》

大きな問題として捉えているということなので、町長の政治理念に基づいてスピード感を持って取り組んでいただきたいと思います。

《質問③》移動手段の確保について

第5次総合振興策定計画の町民アンケートで、16歳〜39歳の多くが利根町には「あまり長く住めない、いつか転出した」と考えている」と回答した。理由の第一位が「交通の便が良くない」で60.3%。82.3%が交通の便が良くないことを理由に、利根町には長く住めないと言っている。交通問題は、高齢の方や体が自由な方だけの問題ではない。若い人の流出問題にも関係していることがアンケート結果からわかる。地方自治法第1条の

《佐々木町長・教育長・学校教育課長答弁》

ランドセル贈呈事業は5年やった。保護者負担の原則に立ち返り、縮小することを決めた。予算は莫大なお金がかかるICT教育に回す。お金の問題で言えば、ICTもやる、全部やるでは町がパンクする。効果が上がらない事業は廃止して新しい事業に移す。教育のためにタブレットやソフトを購入する事業に力を注いで行きたいと考えている。理解をお願いしたい。

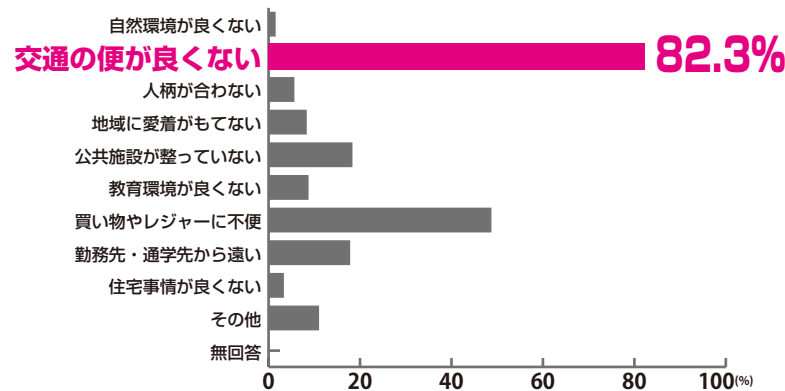
《答弁を受けての発言》

地方公共団体は住民の福祉を増進させることが基本。本当に困っている人の目線に立って考えているのかどうか疑問。町長は施政方針で

「私の住まうは利根町です。と誇りをかけて言える町」

と誇れる町、と言っている。利根町の良い所を信じて住み続けている方たちを裏切るようなことはやって欲しくない。お金がないのはわかる。しかし、本当に削るべき所はないですか。削らなければいけない所は沢山ある。ごく少数の小学校年生のために、本当にお金が出せないのかどうか、もう一度検討していただきたい。

Q, あなたが利根町に住みたくないと思う理由は何ですか？



出典：平成30年1月 第5次総合振興計画策定のための町民アンケート調査結果 報告書より

2に「地方公共団体は住民の福祉の増進を図ることを基本とする」とある。第2条の14では「町はその事務を処理するに当たっては、住民の福祉の増進に務めるとともに、最小の経費で最大の効果をあげるようにしなければならない」とある。法とアンケート結果を受けて、交通問題について、スピード感を持って解決していくのが。

議案第41号 反対討論

《議案第41号》森林環境譲与税基金条例

森林環境譲与税は、年額一千万を個人住民税に均等割で上乗せ課税されます。森林整備や森林吸収源対策が目的としながら、私有林のない人口が多い大都市に多額の譲与税が分配されるのはおかしいです。そして、個人には課税しておきながら大企業の負担がないことも問題です。以上のことから、私は反対致しました。

